

令和7年度 武蔵野市立第三小学校 学校評価報告書

【評価 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:達成がやや不十分である D:達成が不十分である】

校長名 新井 保志

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
第四期学校 教育計画関連	○「学校は、教育目標や教育活動について、学校 HP や学校便りなどで、分かりやすく発信している（選択肢＝とてもそう思う・そう思う・あまり思わない・思わない）」	○保護者アンケートの肯定的回答率 ＝84%	A	学年ごとに機を捉えて紹介したい内容を考えるように取組みを改善した。そのことが肯定的な回答につながったと思われる。次年度以降もさらに継続していく。	・ホームページの更新回数が増え、学校の様子が伝わりやすくなった。 ・行事の様子だけでなく、学年の取組みを紹介するようにしたのはよい。
	○「校務改善や見直しにより、子どもと向き合う時間が増えた」（選択肢＝とてもそう思う・そう思う・あまり思わない・思わない）」	○自己（教職員）評価の肯定的回答率 ＝43%	C	文書の電子化などを進めたが、担当する校務分掌の内容に差が見られる。職層なども考えながら内容の精査が必要である。	・改善方法を考えるために新たに担当を設けては仕事が増えるだけになってしまう。 ・仕事内容によっては外部委託などができるのではないかと。
ある子どもを育てる やさしく思いやりの	○明るく元気なあいさつを奨励する。 ○人に対するやさしい言葉や行いを価値付ける。	・児童、保護者とも 80%以上が挨拶に肯定的な回答であった。 ・優しい言葉や行いについては肯定的な回答をした児童は 70%前半であった。A だけを見ると 40%を切った。思いやりの意識を高める手立てを講じる必要がある。	B	・登校時の挨拶について教職員は十分ではないと感じている。日常的な挨拶指導を継続していく。 ・教育活動のあらゆる場面で、他者に対する思いやりのある言動等を取り上げ、ほめていく指導を全教職員が取組んでいくようにする。	・以前よい言動などを学級全員で見付け、葉のカードに書き貼り付ける「思いやりの木」という取組があったが、児童自らが率先して相手のよさを見付けられるようになるとよい。
自ら考え表現し、学び合う子どもを育てる	○「児童主体の対話的な学び」をテーマに研究を推進する。 ○子ども主体の問題解決型学習を進め、学び合うことができる授業づくりを行う。	・研究授業を8回行い、実践を大切に指導法の改善を追究した。 ・主体的な学びや話し合いについて肯定的な回答をする児童は学年が上がるにつれ下がっている。学びが深まる実感に伴う授業改善が必要である。	B	・デジタル機器のより効果的な活用を今後も追究し、実践を重ねていく。 ・学習活動の中で、対話のよさを実感できる場面を意図的に設定するような指導展開の工夫を行っていく。	・対話等を重ねることで学習の理解が深まることを実感できる割合が増えることが望ましいのではないかと。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の日頃の活動を伝えられるような発信内容へと改善していき、地域・保護者の学校への理解を深めてもらえるようにしていく。 ・業務内容や業務量等を改善するための新たな業務を増やさぬように、校務分掌を見直していく。 ・児童が互いに認め合い、他者を思いやる言動を進んで行っていくような指導や全校での共通した取り組みなどを工夫していく。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
進んで体を動かし、運動する子どもを育てる	<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいを明確にした体育の授業づくりを行う。 ○体育朝会等の体育的活動を意図的計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことについて肯定的な回答が児童、保護者とも80%を超えた。運動することに楽しさを感じられていると思われる。 ・様々な動きを取り入れた運動を計画した。学年が上がるにつれ、楽しさを感じるという回答が下がる傾向にある。日常的に運動を楽しむ意識を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく運動できるよさをもとに、体の動かし方や怪我等からの守り方などを日常的に向上させる指導の工夫を行っていく。 ・気候の変化が激しい昨今の状況を考慮した運動のさせ方や楽しみ方などを指導計画に反映できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な動き方ができてきたのか大きな怪我が減った感じを受ける。 ・子ども館に来る児童も率先して校庭で遊ぶ姿勢が見られる。 ・意図しない怪我が減ったと思う。 ・けがが減ったのは先生方の工夫改善のおかげではないか。
協力して人のためにはたらく子どもを育てる	<ul style="list-style-type: none"> ○学級、学年、学校他、集団の中において一人一人が自分の役割をもち、活躍する機会をつくる。 ○学校行事やクラブ・委員会活動において、高学年児童が活躍する機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な活動の肯定的な回答をした割合が児童、保護者とも80%以上となった。 ・学校全体のために活動することに高学年児童の90%以上が肯定的な回答をした。他者のために動く、活躍できる場があるという機会を意図的に、設けることは有効と思われる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・集団で協力し合い、協働して創り上げていくよさを味わえる活動を、意図的計画的に設定していくようにする。 ・主体的に活動できる力を学校全体で系統的に育てるための計画を設定していく。また縦割り活動のよさをいかして、高学年の活躍する姿を見せられるような場も考慮していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会等の行事では、児童が主体的にかかわっているところを感じられた。 ・児童が学校に進んで関わる場面が多くなることは大切なことである。
子どもたちにとって学ぶ喜び、友達とかわり合う楽しさを味わえる学校をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ○「わかる・できる・のびる」を実感できる授業づくりを行う。 ○学級活動や学校行事、クラブ、委員会において子ども自身が計画・運営に参画できる機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者ともに授業内容について理解できる等と肯定的な回答が80%後半を超える結果となった。特に高学年では90%を超え、学年が上がるにつれ割合が高くなった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人も取り残すことなく学習内容の確かな定着を図れるように指導の工夫改善を繰り返していく。 ・委員会等での創造的な取組みをより推進していき、学校行事においても児童が主体となって活動できる場面を意図的に組めるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いについて肯定的である児童は学年が上がるにつれ減る傾向にあるのに対し、授業内容が理解できる割合は上がる傾向なのは不思議である。 ・学校の活動に参画できると児童の自己肯定感につながると思う。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすこと、運動することが楽しくできるような計画を組織的に行っていけるようにする。 ・今後も怪我の防止や予防につながるような体づくりを進めていけるようにする。 ・主体的で対話的な学びを充実させ、学び合い等の活動によって理解が深まったことを実感できるような指導の工夫改善を行う。 ・学習内容の確実な定着を図り、対話的な学びへ意欲的な参加ができるような指導展開の工夫を行っていく。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
保護者・家庭によって安心して子どもを遊ばせられる任せられる学校をいかに	<p>○生活指導上の諸問題等に対しては生活指導等対応委員会及び学校いじめ対策委員会により組織的に解決を図る。</p> <p>○関係機関や専門家等と連携し、教育相談の体制を充実させる。</p>	<p>・低・中学年の児童と保護者においては学校に楽しく通っていると肯定的に答えた割合が90%台となっている。しかし高学年では70%前半と数値が下がっている。とくにAの割合は50%を切る。</p> <p>・SCや派遣相談員、SSWとの連携を密にして情報を共有し、具体的な方策を取るようにする。</p>	A	<p>・周囲の大人に相談できる安心感をもたせるような雰囲気を作り高め、児童に安心安全な意識をもたせるきめ細やかな対応をしていく。</p> <p>・配慮や支援を必要とする児童に付いては、生活指導等対応委員会を充実させ、関係機関との連携を密に取って対応していくようにする。</p>	<p>・発達段階に応じて、安心感を抱かせる対応をしていくことは大切ではないか。</p> <p>・学校が安心していける場であること、安心して対応してもらえる場であることは大切である。</p>
地域にとりこみ信頼できる、誇りに思える学校をいかに	<p>○開かれた学校づくり協議会を充実させることを通し、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>○幼稚園・保育園との連携及び義務教育9年間を見通した中学校との連携を推進する。</p>	<p>・新たな委員とともにテーマに沿った「熟議」を行い、建設的な意見交換ができた。</p> <p>・学校の施設提供や園児の校内見学などを受け入れ、学校を体感できるようにした。校区である第三中学校との連携方法を具現化することは課題である。</p>	B	<p>・開かれた学校づくり協議会委員と教職員と互いに意見を交流しあい、地域の学校として緊密な関係を構築していく。</p> <p>・園児の施設利用だけにとどまらず、教職員同士がかかわれる場等を設け、園児・児童・生徒の発達段階を踏まえたスムーズな連携を考えていけるようにする。</p>	<p>・教員と交流できる場があることは今後より重要となってくる。意見交換を増やしていきたい。</p> <p>・第三中学校との連携については毎年課題となっている。受験する児童が多いが、三中は地元の学校であるから、連携を大切にしたい。</p> <p>・幼保小中それぞれがすべての子どもにとって安心できる場でありたい。</p>
教職員にとって、自分のよさをいきいきと発揮できる働き甲斐のある学校をいかに	<p>○教職員一人一人が自分のよさをいかしながら、「子どもたちの笑顔のために何ができるか」を考え、主体的に行動することを通して学校経営に参画する。</p> <p>○教育のDX化等の校務改善をすすめ、働き方改革を推進する。</p>	<p>・主体的な学校経営の参画に肯定的に回答した教職員の割合は66%であった。職員の入れ替わりのあるなかで、目標を共有していけることが課題である。</p> <p>・校務改善については肯定的な回答が50%以下となった。校務分掌等の取組む内容のさらなる見直しが必要であると感じる。</p>	C	<p>・分掌内容を見直し、配置人数の再検討や、職務引継ぎ内容のファイリング化など、関わる時間の削減に努める。</p> <p>・誰もが使えるシステム化の構築に向け、対応しやすい校務のあらい出しや、職員会議内での検討の場の設定などを進めていく。</p>	<p>・校務改善に対し、教職員の肯定感が低いのは残念である。</p> <p>・負荷のかからない形で校務を改善していくのは早急に進めたい。</p>
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が安心感をもち続けられる対応や環境づくりをより推進していく。 ・生活指導等対応委員会のさらなる充実を図っていく。 ・中学校との連携について、コロナ禍前の事例なども参考に検討を進めていく。 ・DX化を進めているが、職員が改善を感じられるような取組みを図っていくようにする。 				